

2021 No.161



マジックは笑顔を引き出す エンターテインメント

マジックファンシー (函南町)

▼去る11月19日に函南町文化センターにてマジックファンシーの内輪の発表会が開催された。今年はコロナによ りマジックを披露する場が減り、会員の機運を高めるために開催。会員 たちが研鑽を積んだ技を披露した。

▼きっかけは平成25年に函南町の生涯学習の講座を1年間受講した 十数人の仲間と講師の先生を中心としてマジッククラブを発足。最高 齢88歳、平均年齢70歳の23人の仲間と通常なら月2回の練習で技を 磨いている。函南町文化祭や高齢者施設、子ども園、敬老会での演芸 など地域から声が掛かることが多く、会員も張り合いをもって地域ボラ ンティア活動を積極的にしている。

また、函南町は5つの小学校があり、その内4校のクラブ活動で日用 品を使用し家族の前でも披露できるマジックを教える活動もしている。

▼□上あり炭坑節ありの発表会では、人前での披露に緊張し失敗する 姿が笑いを誘い、素晴らしい技には大きな拍手が送られた。「孫を驚か せたくて始めて5年。楽しんでます」「定年後新しいことにチャレンジし たくて始めた」不思議さと夢の織り成すエンターテインメント創りを目 指して、幼児から高齢者までの笑顔を引きだす団体である。

◇代表: 荒木義春さん

【情報提供·虎尾惠美】

Opics Pludz

活動賞審査結果............. P2~3 令和2年度「コミュニティ活動賞」 審査結果

クローズアップ(吉田町) ·····P6 地域訪問記(伊豆の国市) ····· P7



のりづき・りえ

令和2年度「コミュニティ活動賞」

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹介する優秀賞3団体ほか、別表のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の表彰式を令和3年2月20日に開催するコミュニティフォーラム2021の席上で行います。

優秀賞

10年後の門池が豊かであるために、今できることすべきことを考え行動しよう! 門池コミュニティ推進委員会(沼津市)



手ぶらで持ち込みもOK。地区内外から予約がある

コミュニティの希薄化進行が社会課題となっており、解決には新たな地域活性化が必要であると考え、地域の特性を学びあうことが地域愛であり、地域愛がコミュニティへの帰属性を高めると考えた。

門池地区の歴史・文化を掘り起こし、磨き上げ、ブランド化し、世界に発信することが地域活性化であると定め、令和元年度には、住民が主体となり地域資源である門池公園を活用しながらビジネスの手法により、地域の課題を解決するコミュニティビジネスを企画運営した。

具体的には、平成30年度に沼津市で「パークマネージメント」が施行され、自治会長研修等で門池公園の利活用促進事業として「バーベキュー事業」が浮上。翌元年度に「沼津市民間支援まちづくりファンド」を資金に、門池公園での「完全手ぶらスタイル」バーベキュー事業を開始した。

富士宮を高校生の視点から活性化しよう 富士

富士宮高校会議所(富士宮市)

2016年に発足した富士宮高校会議所の活動は、事務局長が高校教員を退職した後に、地域に根差した活動を高校生たちの視点で行うことが、高校生の柔軟な発想に基づく地域の活性化及び高校生たちの成長に繋がるのではないかと考え、地域の高校生に呼びかけて始めた。

これまで、①高校生としての提言活動 ②富士宮の賑わい創出イベント活動 ③富士宮の新たな商品開発活動 ④富士宮の持続可能な社会づくり(SDGs実践活動)と多岐にわたった活動を行っている。

高校生の視点による地域活性化を目指しているので、高校生の主体性を生かす工夫を行っている。富士宮市内の西町商店街の西町レトロ館を拠点に、イベント等の開催を行っており、地域の賑わい創出の起爆剤になっている。



地域の方々を巻き込み活動

築 160 年の旧岩邊邸を拠点に ①建物・庭園の保全・活用 ②邸に集う人材を生かした国際交流 ③地域コミュニティと連携した事業の展開を推進する 旧岩邊邸(木下邸)を楽しむ会(静岡市) 旧岩邊邸(木下邸)を楽しむ会(静岡市)



富士山の日蒲原フェスタ囲炉裏の間でのお茶

地域の有志が集まり、蒲原地区の歴史や文化の地域特 性に重要な旧岩邊邸の保全と活用に関わることにより、楽 しみながら少子化、空き家等の課題解決につなげることを 日標に、「旧岩邊邸(木下邸)を楽しむ会lを2018年に設立 し活動を展開している。

毎月イベントを企画し、年間で16のイベントを実施。延べ 400人余の地域の参加者を得、若い独創性に富んだ企画 で地域に新風をもたらしてきた。活動の一つに、大学生が 主体となり茶房「家民呼」を運営。古民家を活用し、多世代 交流ワークショップ、留学生との異文化交流等活用のモデ ルとなる催しを実施している。また、地域コミュニティと連 携した事業では「子ども若者まちづくり」グループを結成。

小学生~大学生が一堂に会し、宿場まちガイド、読書会等を開催し、次世代へ継承する取り組みをしいる。

用宗汐風クラブ 静岡市

いはらの川再生PJ会 静岡市

西益津地区お出かけ支援隊 藤枝市

3 密にならないイベント開催方法等、それぞ

活動のほか、WEB会議やユーチューブ配信、

ケーションの場の創設、手作りマスクの配布

ても、高齢者が孤立しないためのコミュ

しかしながら、応募団体はコロナ禍にあっ

況にあったことから、7市・2団体とやや少な

ミュニティづくり活動団体には大変厳しい状

対ち合わせや活動が制限されるという、

れ工夫した活動がみられました。

反 励

御殿場市永原区永寿会 御殿場市

御殿場市深沢区 御殿場市

『ふかさわ やすらぎの会』

ぬまづ・わんあっぷ・どち 沼津市

富士川観光ガイド協会 富士市

半野区上組 富士宮市

ひくま花の会 浜松市

※当協議会HPでも紹介しております。

本年度の応募数は、コロナ禍により対面 評 (望月誠 郎 審查委員長

パクトを与えました。そして、地域の歴史や 活動、異なる高校の生徒が参加した組織によ 応募されることを期待しております。 援等、地域の置かれている様々な課題に対 さとの川の再生、高齢者の買い物時の移動支 民と共に取り組む活動が審査委員へ強い える重要な空き家を保全し、改修、活用を住 発信を行っている活動、地域の歴史・文化を伝 り、地域に根差しながら広域的な連携と情報 み新たなコミュニティビジネスを立ち上げた 成果を持って本「コミュニティ活動賞 上夫と団結力により積極的に取り組み、その までのように安全、安心して、楽しく元気に コミュニティ活動ができることが望まれます。 た活動が高く評価されました。 そして、新たな課題の解決に向けて知恵と 次年度以降は、コロナ禍を乗り越え、これ 審査においては、既存組織の改変に取り に多 イン

図津市 収穫祭で「サツマイモ掘り体験」

コミねっと大平



秋晴れの下 たくさんの親子が楽しんだ

▼10月31日に沼津市大平地区で「収穫祭」が開催された。休耕田畑が増えつつある地区で、その一部を借用し米作りや野菜作り、菖蒲田での花作りも取り組んでいるコミねっと大平が主催した。

▼事前に各区内回覧にて案内し、区民150人(子ども46人・大人104人)が参加した。子ども達は一生懸命サツマイモ掘りにチャレンジ。お土産用に袋詰めする間、シニアコーラスの応援を得て澄み切った青空の下、秋の童謡6曲を合唱し気分も一層晴れやかに。掘った芋は子ども中心にお土産として渡し、また、当日の朝女性会員が5時起きで仕上げた大学芋、ふかし芋は参加者全員に配布した。コロナ禍で活動自粛の中、当地域で初のイベントが終了した。

▼今回、この収穫祭のために耕作面積を広くしたが、開催5日前に試し堀りをしてみると芋の成長が悪いことが発覚。「やる以上お土産は持たせたい」と慌てて近隣農家さんから芋を譲っていただいた。抽選会も

開催し、もち米・果物・日用品等々準備した。会員の心からのおもてなしがつまった収穫祭となった。

◇代表:渡部一夫さん(問合せ・055-934-3980(事務局))

南川市 高校生がアートのチカラで菊川の魅力を発信

NPO法人アート コラールきくがわ

▼去る11月1日、菊川市役所東側にあるきくる広場で「みんなでつくるみんなのアソビバ@菊川」が開催された。常葉大学附属菊川高校美術デザイン科の高校生43人が、アートをモチーフに子どもから大人までだれでも楽しめる 10 のアソビが体験できるコーナーを企画運営した。今回、NPO法人わかもののまち土肥潤也氏を招き、事前に高校生が目的を理解した上で企画を考えるワークショップを実施。落ち葉プール、ティッシュアートなど広場は誰もが自由に遊べる空間に変身。親子を中心に市民400人が参加と大いに賑わった。

▼NPO法人アートコラールきくがわの事業「まち×ひと×アートプロジェクト」は、アートを活用したまちづくり事業を4年前から常葉大学附属菊川高校と協働で実施。「みんなのアソビバ」はその一環として開催した。当初、高校生たちは運営のお手伝いとして参加していたが、次



割り箸ゴム鉄砲で遊ぶ子ども

第に地域で学び、考え、見えてきた課題を主体的に捉え、企画を実施するまでに成長している。

◇代表:笠原活世さん(問合せ・090-3935-1610)

磐田市 コロナで苦労している方に高校生がエールを送る

県立磐田西高等学校サッカー部



応援メッセージの活動をするサッカー部の皆さん

▼県立磐田西高等学校サッカー部では、新型コロナにより学校が休校となった際に、監督が部員に「何かできることは無いか」と問いかけたところ「困っている方にマスクを届けたい」と意見があがった。そこで家にあるTシャツや手ぬぐいを材料に、60人の部員と保護者がマスク300枚を手作りし、5月の連休明けに磐田市内の高齢者施設3か所に届けた。この活動は「小さな親切」運動本部より表彰された。

▼また、市内飲食店を応援する団体「いわたエール実行委員会」と協力 し、インスタグラムを使い、新型コロナ対応で頑張る人へ応援メッセー ジを送る「#いわたへエール」の活動も生徒主導で始めた。

▼コロナの影響により部活動もままならない中、思いがけず地域とのつながりが始まったサッカー部。事態が収束したら、商店街の清掃のお手伝いや小学生のサッカースクールボランティア等の活動をしていきたいそうだ。

◇代表:大久保翔悟さん(監督)(問合せ・0538-34-5217(学校))

【情報提供·安部詠司】

スマホで森町発信!防災に活用!

森町スマホタブレット 活用教室

▼毎月第2金曜日の夜、スマホの使い方を学びに30~80歳の受講生約40人が森町アリーナに集まる。主催する森町スマホタブレット活用教室は、森町の情報発信、防災や被災時にスマホを活用できるよう教室を開いている。

▼教室を主催するスタッフは9人(男7人、女2人)平均年齢55歳。地域ブログを通じて知り合い、町おこしなどに取り組んでいた。東日本大震災でITツールの有効性を実感し「スマホ等を活用し防災に役立てることが大切」と平成23年「森町防災ネット研究会」を設立し、森町の近況や防災に関する動画配信、町へ防災の提案書を提出した。防災にITを活用するPR活動をするも、スマホを使いこなせない人が多いことから「スマホよろず相談塾」を開講。その後名称を変えスマホの使い方教室を軸に活動し3年になる。

▼講座最終目標はSNSを使って森町の魅力を発信する事。受講生の中にはSNSの発信をマスターし、情報発信をする人も出てきている。スマホの扱いに慣れ、誰もが防災や被災時に活用できるようになって欲しい。
◇代表:栗林春子さん



わからない事は常時LINEで対応している

【情報提供·山田勝恵】

浜松市 地域の わ わ わ

飯田地区 サイコロダーツ普及会



小さな子どもも遊べるサイコロダーツ

▼浜松市南区の飯田地区で生まれた「サイコロダーツ」。サイコロを1 m50cm離れたところから床に置いたダーツ盤に投げるだけだが、サイコロに鉛の球が入っていることから予測不可能に転がり、初心者でも高得点が出ることもあるドラマチックな競技である。

▼「誰でも気軽に参加でき一緒に遊べる機会を作れば、地域活性化の機運が一層高まるのではないか」と代表の青島さんが12年程前に考案したゲーム。早速、夏祭りに出展し地域住民に試してもらったところ「得点計算が老化防止に良い」「世代間交流ができる」と好感触。何より投者を見守る外野の会話が弾むのがこのゲームの一番楽しいところである。

▼10月末には第6回南地区大会が開かれ7地区中5地区が参戦。3時間の熱戦が繰り広げられた。年々地域に密着しつつあるのも、普及会が施設やお祭りで出張体験会を開催し地道な活動をしてきたからこそ。

来年1月31日には飯田地区大会を予定している。ダーツ盤をご希望の方はお問合せください。

◇代表:青島達郎さん(問合せ・053-425-0085(吉松さん))

【情報提供·佐藤勝彦】

地域活動情報

森町

この詳細はホームページでご覧になれます(アドレス http://www.sizcom.jp)

No.	市町	活動名	主催者	趣旨・目的	月日
1	三島市	認知症の方やその家族、地域住民の皆さん 誰もが自由に集える場所	オレンジほっとカフェきたうえ	認知症の方、その介護の方、地域住民の誰もが安心できる居場所。	月1回
2	沼津市	地域の中で輝くシニアライフを目指して	 夢ある人づくり塾DSプエルト 	第二の人生を楽しむ。地域で新たな活躍の場を見つける。	セカンドライフ講座 年1回 絵手紙教室月1回
3	藤枝市	シトラスリボンプロジェクト	シトラスリボンプロジェクト From 志太	コロナ禍における差別や偏見をなくし町を応援するリボンの作成・配布。	月1回 他に参加自由
4	藤枝市	せっけんラボ 「フレグランスという名の香害」	「しゃぼんだまの会」	せっけん推進活動をベースに健康や環境・水資源 の大切さを考えてもらう。	月1回 他に参加自由
5	藤枝市	地元の子どもたちの成長を実感 「大洲のこども作品展」	大洲地区交流センター	地元の方に、作品を通して子どもの成長を感じて もらう。	年1回 毎年1月
6	島田市	地域住民の守り神 「神座の虚空蔵さん」の縁日	神座虚空蔵尊世話人会	地域住民の氏神様虚空蔵さんを次世代までつなぎ 続ける。	年1回 毎年2月
7	御前崎市	ī 心がすっきり夢拾い	心がすっきり御前崎で夢拾い し	ゴミ拾いと言う活動を通じて仲間を作ろう。	月1回 第3火曜日
8	掛川市	コロナに負けるな月おくれの七夕祭	宮脇区自治会	地区住民の交流。	令和2年8月8日(土)
9	湖西市	おもてなしの心を込めて御案内	新居宿史跡案内人の会	新居関所を訪れた人々の案内や、関所内でのイベ ントの手伝い。	イベント 年2回 案内は通年



創意工夫や新しい手法を活かしている 団体を紹介します。



メダカすくい、ストライクボール等ゲームエリアも設置



小山城をバックにコロナ禍初のイベントを楽しむ町民

ソーシャルディスタンスで 子どもたちのために思い出づくり

小山城夜市実行委員会(吉田町)

9月20日に私が住む吉田町で、第1回小山城夜市が開催されました。日中から降り続いた雨も子どもたちが集まり始めた頃には止み、美しい夕焼けとライトアップされた小山城をバックに793人の町民がコロナ禍の中、短いながら楽しい時間を過ごしました。

主催は地元有志からなる小山城夜市実行委員会。代表の江原さんは愛知県出身で2018年地域おこし協力隊として就任し、移住定住促進の仕事をする傍ら地元との繋がりを求め町内を歩き、商工会青年部、同じ移住者の方との交流を進め今回の開催につながったとのこと。取材では、若い人の力を借りる手段を伺えることを楽しみにお会いしました。

できない中で何ができるか

新型コロナ感染拡大防止のため町を挙げてのイベントは勿論、各地区の行事も相次いで中止となる中、同じ移住者の鴫谷さんとの会話から、「子どもたちの思い出が全く無い年になるのは可哀そう」と夏の思い出作りの企画を進めることとなりました。とはいえコロナ禍でのイベント企画は不安が先に立ち、できない理由ばかりが出ました。話しあう中、大規模でやろうとするから不安になると気がつき「自分たちの出来る範囲で始めよう」と吉田町民限定、身分証確認、マスク着用、滞在時間は1時間程度の「お願い」を定めた夜市開催が決まりました。

夜市の主催に必要な書類などは役場からの協力を得るも、実は企画しながら進めていたこともあり、当初の思惑どおりにはいかないなど紆余曲折もありまし

た。それぞれの人脈や利用者同士がSNSで気軽に交流できる「インスタグラム」や「ツイッター」にて情報発信し、設営協力者や出店者、ボランティアスタッフが集まりました。当日はスタッフの不安をよそに、スムーズに開催されたことに手ごたえを感じたそうです。「この夜市のやり方がコロナ禍でのイベントを考えている方への判断材料になれば」と江原さん。12月19日に第2回目の開催が予定されていましたが、コロナ感染増のため残念ながら中止となりました。

地域おこしは若者おこし

「活動に若い人の協力を得るには?」の問いに、日常の一部と化しているスマホを利用するのが一番とおっしゃいます。なぜなら情報収集も発信もスマホを使っているからだそうです。「地域活動をSNSで発信し興味を持った人と会話して若い人を引き込むのが良い」と教えてくれました。

コロナ禍でただ待つのではなくできる事を考える。 取材をしながらこちらが力を頂きました。吉田町に移住して2年。26歳の青年が耕し種をまいているものは 少しずつ根付き芽を出していくことでしょう。若い人 が先頭に立ち引っ張っていく吉田町。そんな日が必ず 来ると願わずにはいられませんでした。

◇代表:江原駿介さん 【情報提供・吉永優子】

☑ レポート:市川賴子 編集委員



浮橋の魅力を伝えたい

~豊かな自然と特産品を活用した地域活性化を目指して~

浮橋まちづくり実行委員会 (伊豆の国市)

伊豆箱根鉄道の田京駅から東へ緩やかな坂道を上っていき、熱海に通じる熱海大仁線を走ると盆地が現れる。隠里のような150世帯の住民が暮らす浮橋地区である。古くから農業を営む土地だが、近年は少子高齢化の影響により過疎化が進んでいる。その「活性化」の手段として、浮橋の魅力を発信するグループを紹介したい。代表の土屋さんと先祖代々専業農家の佐藤さんからお話を伺った。

始まりは「幻のそば」!

山間にある浮橋地区では、昼夜の寒暖の差が大きいことから自家消費用の美味しいそばが昔から作られていたが、一般には出回らないことから「幻のそば」と言われていた。そこで「そば」を使って地区の魅力を発信しようと始めたのが「そば栽培体験」だった。参加者を募って手作業で実施してみると、美味しいそばに舌鼓をうつまでには大変な労力が必要なことを実感してもらうことに…。年々参加者が減ったこともあり現在そば栽培体験は行っていないが、会員が持っている農機具を使い休耕田9反を借りそばを作り、浮橋地区主催「浮橋そばの里祭り」にそば粉2000食分を提供している。さらに裏作で4反の小麦を栽培し「浮橋うどん」「浮橋そうめん」をブランド商品として販売している。

都会の小学生田舎を体験!

また、東京都渋谷区広尾小学校との交流があり、田植え、稲刈り、1泊2日の「田舎体験」を会で受け入れている。宿泊では、流しソーメンやバーベキュー、カブトムシ採りも行われ、中でも子どもたちに大好評なのは花火である。都会では、家で花火を楽しむこともままならないと聞

いてビックリ。その光景を眺めながら夜は保護者と話し合い交流を深めているとのこと。寝袋を使用した公民館での寝泊まりも都会では味わえない「魅力」になっている。

その他一般向けのイベントとして、ホタル鑑賞会やクワガタカブトムシ採りの行事を実施。毎年市内外から大勢の人が浮橋を訪れるようになった。

今後も地域の活性化を!

市役所から「まちおこしをやってみないか?」と声を掛けられ始まった活動。市街化調整区域のため、新しい人が中々入れない地区ということもあり「ならばこちらからPRして外の人に来てもらおう。地域の作物を製品化し、地域に潤いをもたらそう」を目的にしたという。発足から9年目を迎え、現在会員は25人。平均年齢54歳のメンバーで紡ぐ浮橋の魅力づくり。土屋さんは「若い世代に加わってもらい、活動を広げたい」そのための一助になりたいとのこと。佐藤さんは「大変だからこそやるという思いを大事にし、若い人に農業技術を伝えたい」と語る。来年の2月には炭焼きに挑戦するという。豊かな自然と特産品を活用し、浮橋のPR活動にまい進する会の今後の活動を応援していきたい。

帰りに「浮橋うどん」を購入しいただいてみると、つるんとした麺を噛むと浮橋の景色が頭に浮かぶ。地域への思いが加味されより美味しく感じた。

◇代表:土屋 實さん(問合せ・0558-76-7785)
【情報提供・伊藤 博】

✓ レポート:髙村 光 編集委員









コミュニティ活動集団 6団体を追加指定

今年度は、追加団体を含め15団体 を指定し、活動の支援を行います。

- ■淀師区安心安全で暮らしやすいまちづくり協議会(富士宮市)
- ■あそびの会 (静岡市)
- ■泉ヶ谷美しいまちづくり協議会 (静岡市)
- ■静岡 2.0 (静岡市)
- ■コミカレ・ねっとわーく 御前崎の会(御前崎市)
- ■宮ヶ谷お助け隊 (御前崎市)

地域活動に関心のある方へ! お知らせします

コミュニティ・フォーラム2021

すべてのプログラムを YouTube**ライブ配信**します。



谷本道哉

変物の始めた コミュニティの役割

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちにとって当たり前だった日常生活、経済活動を一変させ、地域活動に多大な影響を与えています。

このようなコロナ禍であっても、人と人とのつながりを大切にしていくことが必要です。「今、私たちに何ができるのか」コミュニティに関わる皆様とともに考えていきたいと思います。

コロナに負けない!

筋肉体操

2021**2**/**20 1**0:00~15:00

会 プラサ ヴェルデ コンベンションホールB

☞ プログラム ベ

10:00~ 開会

10:15~ 表彰式

・令和2年度コミュニティ活動賞

10:30~ 基調講演

演題「コロナに負けない!筋肉体操」

講師 谷本道哉氏 12:00~ 昼食·休憩

12:50~ 事例発表

・コミュニティ活動賞 優秀賞受賞団体

13:30~ パネルディスカッション 「変わり始めたコミュニティの役割」

15:00 閉会

パネルディスカッション「変わり始めたコミュニティの役割」

●パネリスト

青森千枝美 氏(であい村 蔵ら代表 松崎町)

小田 圭介 氏(裾野市東地区おやじの会何にもしない合宿実行委員長 裾野市)

福田 和男 氏(門池コミュニティ推進委員会会長 沼津市)藤井さやか 氏(子育て応援サークル いちご代表 沼津市)

●コーディネーター

飯倉 清太 氏(NPOサプライズ代表 伊豆市)

※新型コロナ感染防止のため、入場は構成団体、コミねっと会員、 表彰関係者、市町関係者のみとし一般募集は行いません。

コミねっと会員の皆さん! 貴方の作品を展示してみませんか?

沼津市グランシップで開催する「コミュニティ・フォーラム 2021」において、ロビー等での「コミねっと会員作品展」の企画をしております。

コミねっとの皆さんといえば、多種多様な技術や趣味をお持ちの人材宝庫集団。お家や地域の中だけに埋まらせておくのはもったいない! 県内各地からお越しになる皆様に、貴方の(貴団体の)作品や日頃の活動をご紹介ください。

「貴方自身を発信して、

一緒にフォーラムを盛り上げましょう!」

募集出品

写真、手芸、陶芸、書道、コミねっと活動報告、広報紙、 紙芝居 etc. (自由)

出展希望者

コミねっと会員。事前申し込みがあった方に限ります。 当日出展は、ご遠慮ください。

申込締切日

2月5日(金)

※展示希望の方はまずは事務局にご連絡ください。

地域情報をお寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階

[TEL] 054-251-3585 [FAX] 054-250-8681 [URL] http://www.sizcom.jp [E-mail]sizucom0829@po.across.or.jp